

令和 3 年 7 月 26 日

西脇市長 片 山 象 三 様

西脇市まちづくり推進審議会
会長 平 田 富士男

西脇市市民提案型まちづくり事業企画書の審査結果について

西脇市市民提案型まちづくり事業補助金交付規程に基づき、令和 3 年度申請について、令和 3 年 7 月 15 日開催の当部会において審査した結果、下記のとおり取りまとめましたので、西脇市まちづくり推進審議会の意見として提出します。

団体名	事業名	事業費 (補助要望額)	補助決定額 (補助対象額)	補助金依存率 (%)
北はりま障がい者美術公募展世話人会	第 2 回北はりま障がい者美術（アール・ブリュット）公募展事業	317,362円 (178,000円)	178,000円 (199,681円)	56.0
西脇・多可硬式野球クラブシャイン	「第 1 回エコボール杯中学生硬式野球」大会事業	321,000円 (300,000円)	165,000円 ※千円未満の端数切捨て (276,000円)	51.4
西脇を学ぶ会	地域文化創生事業	311,760円 (300,000円)	300,000円 (301,760円)	96.2
合 計		950,122円 (778,000円)	643,000円 (777,441円)	—

※ 各団体の補助金等の詳細については、別紙審査個票のとおり。

市民提案型まちづくり事業審査に係る意見（令和3年度 前期申請）

団体名	意見
北はりま障がい者美術公募展世話人会	・ 障害者への合理的配慮の促進等の観点から本事業のさらなる発展充実を望む。
西脇・多可硬式野球クラブシャイン	・ 事業の特色や効果が、市民や参加者に十分周知されるよう事業内容を工夫し実施すること。 ・ 補助事業終了後も継続して事業を実施できるよう財源の確保を検討すること。
西脇を学ぶ会	・ 団体が掲げる活動目的に十分留意し、公益性をより高めていけるよう事業を実施すること。 ・ 補助事業終了後も継続して事業を実施できるよう財源の確保を検討すること。

実施団体	北はりま障がい者美術公募展世話人会 代表 小松原 謙介 (会員10名)					西脇・多可硬式野球クラブシャイン 代表 玉田 善政 (会員36名)					西脇を学ぶ会 代表 藤本 邦之 (会員10名)						
事業名	第2回北はりま障がい者美術(アール・ブリュット)公募展事業					「第1回エコボール杯中学生硬式野球」大会事業					地域文化創生事業						
事業概要	対象地域	市内外全域(北播磨地区全域)		実施期間	3.4.1 ~ 4.3.31	対象地域	市内外全域		実施期間	3.7.1 ~ 3.9.30	対象地域	市内全域		実施期間	3.9.1 ~ 3.12.31		
	予算	¥317,362	要望額	¥178,000	補助対象額	¥199,681	予算	¥321,000	要望額	¥300,000	補助対象額	¥276,000	予算	¥311,760	要望額	¥300,000	補助対象額
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の方々の美術活動に光を当て、その作品を評価し、多くの市民の方々に鑑賞してもらう。 鑑賞を通して互いのコミュニケーションの充実を図るとともに、障がいのある人の社会参加を促進する。 公募展の成功により、障がい者への差別解消と合理的配慮の提供・促進につなげる。 					<ul style="list-style-type: none"> 全国の障害者就労支援事業所等で製造されているエコボール(硬式球の再生)を県内外に広め、障害者への理解を深める事業としたい。 エコボールは全国約32の事業所で取り組まれており、中学生、高校生及び社会人野球各チームに喜ばれている。障害者理解と野球道具への感謝の気持ちを育て、中高生の人間教育の一翼も担いたいと考え、今回の大会を企画した。 					<ul style="list-style-type: none"> 西脇の自然、歴史、文化、産業などを深く学ぶことで、地域文化の発展と創造に寄与するとともに、西脇の未来を担う人材の育成を目指す。 						
事業内容	<p>公募期間 令和3年9月1日~令和4年3月</p> <p>作品審査 令和4年3月</p> <p>展示会 令和4年3月(2週間)予定</p> <p>対象は北はりま地区に在住または勤務されている方 中学生以上(令和4年3月1日現在)(障がいのある方) 9月以降に案内を障がい者施設、学校、個人に送る。3月に作品搬入、市民アーティストの審査後に作品を展示公開する。 展示は、第1回と同じ播磨内陸生活文化総合センター(ドウジウム)の予定</p>					<ul style="list-style-type: none"> 対象:近畿地区の中学生硬式野球6~8チーム 時期:令和3年9月18日~20日(20日は予備日) 場所:黒田庄ふれあいスタジアム他 内容:総当たりのリーグ戦形式とし、「西脇青年の家」での宿泊を予定している。 西脇市、西脇市教育委員会、文化・スポーツ振興財団、神戸新聞社に後援を依頼する。 					<p>講演会</p> <p>①対象者:西脇市民と市内勤務者及び学生</p> <p>②日 程:令和3年9月1日~12月31日の間</p> <p>③会 場:アピカ音楽ホール</p> <p>④題 目:「愛する西脇市の産業振興とまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりと地域創生 起業促進 西脇ファッション都市構想 人材育成 						
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> 第1回公募展には107名の作品が集まり、障がいをもちながらアートに取り組み、社会参加しようとする熱意で会場いっぱいとなった。 2週間の展示会には北はりまの市民650名を超える入場者があり、障がい者の作品には大きな反響があった。 出品者の方々は名前も公表し、社会参加として大きな一歩となり、差別解消にも大きく貢献できた。 					<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあいスタジアム」や「青年の家」で近畿地区の中学生が交流することで西脇市のスポーツ文化の充実と指導性をアピールすることができる。 エコボール(環境や教育面)の大切さが周知され障害者事業所等の活動が広がる。 大会を通じて地元「西脇多可硬式野球クラブShine」の中学生が成長し、地域社会の中で成長する自分を発見するきっかけとなると思われる。 					<ul style="list-style-type: none"> (聴き手が)講師の具体的提案をどう受け止めるか、にかかっているが、提案を地域住民や業界が行政と一体となって地道に取り組むことで、まちづくりや地場産業の未来に希望を与え、新しい機運が醸成されることが期待できる。 						
事業の特色	<ul style="list-style-type: none"> 障がいがあってもその作品はすばらしく、観る者をひきつける。公募展は、障がい者アーティストの皆さんを大きく励ます。 作品の審査に市民アーティストの方々が多く関わることで、アールブリュット美術への評価・交流が深まる。 取り組みを通じて障がい者の方々に支援しようとする市民の方々との協力関係が生まれる。第1回でも多くの市民協賛金が会を支えた。 					<ul style="list-style-type: none"> 障害者がつくるエコボールを使用することで共生社会への理解が広がる。 近畿地区の中学生が交流する機会を提供する。 教育の一環としての野球大会であること。 新庁舎を含む新生西脇市の良さを伝える。 					<p>講師の幅広い視野から具体的提案を市民、業界人やこれからの社会を担っていく人材に、熱意をもって直接話しかける。</p> <p>①愛する昔の西脇とこれからの西脇</p> <p>②西脇ファッション都市構想における若手人材と発信力をどう推進するか。</p> <p>③起業・創業の促進方法</p> <p>④地域創生は地場産業の振興にかかると。</p>						
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 第2、3回と北はりまの障がい者支援の活動として定着できるよう図りたい。 世話会だけでなく、「美術展応援スタッフ」を募集して取り組みを支えてもらう。 アールブリュットネットワーク事務局と連絡を取り、学びを深めたい。 					<ul style="list-style-type: none"> 第2回、第3回と継続、発展させてより広範囲からチームを募りたい。その中で障害者による大会運営補助活動や始球式なども取り入れたい。 可能ならば昼の休憩等を利用して近隣障害者施設利用者による「車いす野球大会」を実施できればさらに有益な大会となる。そこへもつなげていきたい。 西脇市出身でプロ野球通算317勝(歴代4位)の鈴木啓示さんはじめ、西脇出身のプロ野球選手が一堂に会する機会を提供していく。 					<p>西脇市は全国トップレベルの多くの人材を輩出している。西脇の豊かな歴史と文化を継承し、市民の「もっと知りたい!西脇」を標榜し、それぞれの文化活動から、この「西脇学」を通じ西脇への熱い想いを発信するとともに、文化を大切に、ふるさとを愛する人が集うまちづくりに貢献し、広く西脇の文化行政向上発展と西脇を背負って立つ人を育てることを目的に事業を展開する。</p>						